

山桜の里 戸赤



川は

ソバ打ちのほ
どき、川の見守
りなどつごうのつ
く人をつのり、地区で
は当番表をつくって
お客さんを迎える
ため、家族の協
力のもと奮闘中
です。

「ふくしまっ子
夏の体験活動応援事



日帰りメニューも多い



7/5 ソバ打ち・川遊び体験10人

福島民報社発行「情報ナビ
Time」掲載の広告(26.7.24)

子どもの歓声

おとも笑顔がこぼれる



とも

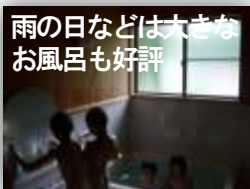
業」は
7、8月中13回
240人の予約
があり、山桜
学校は川遊び、
キャンプファ
イヤーなど取
り入れ忙しい
時期を迎えて
います。川の音にからんで広がる
子供らの
歓声は、見
守る大人た
ちの笑顔
を誘ってま
した。



だち



お客さんは個人グループ
やスポ少、幼稚園などさまざ



雨の日などは大きな
お風呂も好評

星空体験・流しそうめん・
食事づくり体験のほかカレ
ー食べるだけ、そば食べる
だけなどの希望はさまざま



食べるだけのつもりが体験となっ
たソバ打ち

【木地の学習No.45】③残り一ヶ所については、延享三年「蛭谷氏子駈帳」に「奥州会津南山之内、針生材木地や」とあって、孫右エ門三人の木地師名が記されている。また、高野組郷頭文書「諸豎書留帳、寛延二(1749)年」によると、「下小屋孫右エ門」と「若沢小屋庄右エ門」等が扶食米拝借願を出している。従って残り一ヶ所の木地小屋は「下小屋」と断定しても間違いはないと思われる。所在地は推定できないが、旧国道筋駒止峠茶屋に至る手前の、旧針生スキー場入り口の辺りに「木地屋敷」と呼ばれているところがあり、そこが、「下小屋」に該当するところだろうか。今後の調査に俟たなければならない。針生木地小屋の発祥年代は、若沢小屋の墓石及び南泉寺過去帳の「針生小屋、定吉、天和二(1682)年」と考え合わせれば、天和期頃から始まったと推定される。以降大正、昭和期まで、入れ代り立ち代わり木地師集団が山稼ぎをした地であり、南会津木地はここから始まったといっても過言ではない。木地の全盛 蒲生氏郷以来他国から会津に移動する状態は、幕末近くまで続くことになるが、会津入りした木地師達の到着先は、近世後期には、針生を中心とした御蔵入りの地であった。耶麻郡の各木地小屋は定住期に入っており、他邦からの木地師入山を拒んでいたのである。時代はやや下るが、喜多方塗師が木地不足のため困って、他邦木地師を入れるように願い出たのに対して、検原木地師は引き入れ反対の願書を出している。「(会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より) (つづく)」

「戸赤の活動、一緒に進めていきたい」

花豆パイは二年目をむかえ定着してきてい
ると思つ。県など役所関係からも注目されてお
り、戸赤の活動を知ってもらいたい。今年のはつれし
い。今年の新しい豆で来年も売りたいたい。今年
の新しい豆で来年も売りたいたい。今年の新しい
豆で来年も売りたいたい。今年の新しい豆で来年
も売りたいたい。今年の新しい豆で来年も売りた
いたい。今年の新しい豆で来年も売りたいたい。

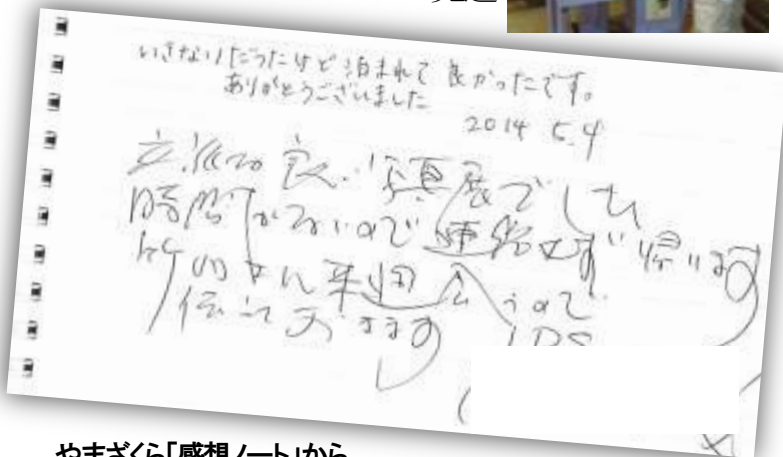


7月10日花豆開花最盛期

木地工房、常連さん腕磨く



常連さん
の直売所
も楽しい
みどが
で上達
売達



やまざくら「感想ノート」から

お帰りの祭(さい)
キャンプファイヤーと
せんこう花火大会

日時・八月
十四日(木)
午後七時
場所・やまざくら
学校校庭

戸赤区・戸赤青少年健全育成事業共催

(ストーリー性のある村づくりのために) [No.14]・下郷町史 第7巻発刊のことば 下郷町長湯田雄二 このたび、下郷町史第7巻通史編原始・古代・中世・近世を発刊する運びとなりました。原始時代から戊辰戦争までを通史として叙述したものです。ここに住む私たちの目線で執筆することに心がけました。縄文・弥生時代から人々は下郷に暮らしてきました。長江庄と呼ばれた時代、下郷は湯原郷・古々布郷・奈良原郷からなっていました。そして長江庄の本拠地が古々布郷と考えられています。鎌倉時代から400年間南山を支配した長沼氏は始め下郷を本拠地とし、のちに田島へ拠点を移します。天正十八年伊達正宗は小田原山陣を迫られ、大内に宿営しました。大内は伊達家一族を收容するだけの駅所機能を果たしていたと考えられます。太閤検地に反対した松川騒動や寛永の頃に賑わった倉谷村六斎米市(ろくさいこめいち)。天和三年の五十里湖出現と松川通り開削。300余人が処罰された御蔵入騒動。中付駕者と宿駅問屋の抗争。多くの人足動員を求められた戊辰戦争など、今までおぼろげだった先人の軌跡がより鮮明のものとなりました。

「下郷町史—第7巻通史編 (発行・下郷町)」より出典 (続く)